

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
横浜カレッジ	1976/8/16	岩崎 有紀子	〒 220-0004 (住所) 神奈川県横浜市西区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人岩崎学園	1951/3/8	理事長 岩崎 文裕	〒 220-0004 (住所) 神奈川県横浜市西区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	文化・教養専門課程	ブライダル科	平成19(2007)年度	—	平成26(2014)年度																													
学科の目的	本学科は、開設以来、一貫して本物の婚礼をプロデュースする実践的な「ブライダルプロジェクト」の授業を核に、教育課程を編成している。業界企業と学生が直接コンタクトを取り、協業するプログラムを通して、職種への理解を促進するとともに、求められるスキル、ホスピタリティマインドを養成し、ブライダル業界で実践的に活躍できる人材育成を目的としている。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	サービス接客検定準1級、サービス接客検定1級、ブライダルコーディネーター技能検定3級																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,725 単位時間 単位	135 単位時間 単位	435 単位時間 単位	1,155 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																															
160人	154人	0人	0%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>78</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>78</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>74</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>56</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>95</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>76</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業生に占める就職者の割合(E/C)</td><td>95</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) アニヴェルセル(株)、(株)ベストアニバーサリー、相鉄ホテル(株)、富士屋ホテル(株) ほか</p>						■卒業生数(C)	78	人	■就職希望者数(D)	78	人	■就職者数(E)	74	人	■地元就職者数(F)	56	人	■就職率(E/D)	95	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	76	%	■卒業生に占める就職者の割合(E/C)	95	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業生数(C)	78	人																																
■就職希望者数(D)	78	人																																
■就職者数(E)	74	人																																
■地元就職者数(F)	56	人																																
■就職率(E/D)	95	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	76	%																																
■卒業生に占める就職者の割合(E/C)	95	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL:</p>																																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html">https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,725 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>375 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>135 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>510 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>375 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>135 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>60 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>						総授業時数	1,725 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	375 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	135 単位時間	うち必修授業時数	510 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	375 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	135 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	60 単位時間	総授業時数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	1,725 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	375 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	135 単位時間																																	
うち必修授業時数	510 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	375 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	135 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	60 単位時間																																	
総授業時数	0 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																	
うち必修授業時数	0 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																	

教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人
	計	6人
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	6人

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高等学校教育の基盤の上に深く専門的な教育を施すにふさわしい授業を行うため、就職先企業などと連携し、その要請を十分に活かしつつ、教育課程の編成に反映させることにより、職業教育の質を高める。外部の関連施設の意見を教育課程編成に反映させるための機能として、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成にあたっては、授業内容、授業方法およびその手法、法定の範囲内での授業科目の新たな開設など「教育課程編成委員会」の意見を反映させるものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、就職後に求められる実務に関する理論・知識・技術・技能などを十分に把握し、それを職業教育に具体化するために、特に教育課程につき意見を述べ、その編成に寄与するものとする。このため、関連業界の動向や地域の実情に明るく、かつ経験豊富で卓識をもつ者を外部委員として選任する。また、実務のみならず、学校教育についても十分な理解があることが望まれる。委員会は学校長が主催し、外部委員のほか教育課程編成にたずさわる教職員も協議に加わるものとする。協議の結果については、教員会議で共有し、学校長の判断をもって、当該年度または翌年度の教授内容、教授方法など教育に具体的に活かすものとする。また、上記の性質から「学校関係者評価委員会」とは、役割を異にし、別組織として運営を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月31日現在

名前	所属	任期	種別
上野 真帆	一般財団法人ファッション産業人材育成機構 IFIビジネス・スクール 課長	R5.4.1～R6.3.31	F系①の役職員
蒲生 典子	一般社団法人ジャパン・アドレッシング・アワード・アソシエーション副運営委員長 株式会社ガモウ 代表取締役社長	R5.4.1～R6.3.31	B系①の役職員
佐々木 貴夫	公益社団法人日本プライダル文化振興協会 事務局長	R5.4.1～R6.3.31	Br①の役職員
千葉 智之	株式会社リクルート Division統括本部 ビューティDivision リサーチ&アカデミーG ホットベッパ-ビューティ-アカデミー アカデミー長	R5.4.1～R6.3.31	B系③の役職員
中村 英二	株式会社イーグラント・コーポレーション 代表取締役社長	R5.4.1～R6.3.31	B系③の役職員
村山 武史	新横浜グレイスホテル 総務部 部長 兼 総務・人事課 課長	R5.4.1～R6.3.31	Br③の役職員
柳川 純一	株式会社オンワードホールディングス人財Div.人財Sec 課長代理	R5.4.1～R6.3.31	F系③の役職員
横山 昌弘	全国理美容製造者協会 代表理事 日本ロレアル株式会社 プロフェッショナルプロダクツ事業本部 営業統括本部 本部長	R5.4.1～R6.3.31	B系①の役職員
岩崎 有紀子	横浜カレッジ 学校長	R5.4.1～R6.3.31	委員長
小松 加代子	横浜カレッジ 教務部 部長	R5.4.1～R6.3.31	—
江波戸 秀樹	横浜カレッジ 教務部 次長	R5.4.1～R6.3.31	—
角館 裕美	横浜カレッジ 教務部 次長	R5.4.1～R6.3.31	—
西木 祐子	横浜カレッジ 教務部 参与	R5.4.1～R6.3.31	—
市川 祐三	横浜カレッジ 教務部 参与	R5.4.1～R6.3.31	—
別所 慶子	横浜カレッジ 教務部 教務課 課長補佐	R5.4.1～R6.3.31	—
佐々木 睦美	横浜カレッジ 教務部 教務課 課長補佐	R5.4.1～R6.3.31	—
藤重 寛志	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R5.4.1～R6.3.31	—
三富 千恵子	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R5.4.1～R6.3.31	—
糸内 美穂	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R5.4.1～R6.3.31	—
三船 澄人	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R5.4.1～R6.3.31	—
安池 かおり	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R5.4.1～R6.3.31	—
大塚 留美子	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門官	R5.4.1～R6.3.31	—
篠原 タチ	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門官	R5.4.1～R6.3.31	—
鈴木 理恵	横浜カレッジ 教務部 教務課 副主任	R5.4.1～R6.3.31	—
末次 友香	横浜カレッジ 教務部 教務課 副主任	R5.4.1～R6.3.31	—
中澤 宏将	横浜カレッジ 教務部 教務課 副主任	R5.4.1～R6.3.31	—
中谷 香穂	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R5.4.1～R6.3.31	—
鈴木 寿子	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R5.4.1～R6.3.31	—
大瀬 三香子	横浜カレッジ 教務部 教務課 教員	R5.4.1～R6.3.31	—
土田 真莉菜	横浜カレッジ 教務部 教務課 教員	R5.4.1～R6.3.31	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

※学科名の略称 F系:ファッション系学科(ファッションライフデザイン学科、ファッションビジネス科)

Br:プライダル科

B系:ビューティー系学科(ビューティーコーディネート科、ビューティースタylist科)

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催し、7月は当該年度の中間報告として、2月は当該年度の振り返りと次年度方針についての討議を行う。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月24日 14:00～15:30

第2回 令和6年2月20日 14:00～15:30 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会では、コロナ禍を経た業界の現状、DXの取り組み、人手不足を大きなテーマに、①現場スキルに必要な企画力と発信力②プライダル業界でのDX導入での課題③特定生活関連サービスインバウンド需要創出促進・基盤強化事業の取り組みについて意見交換をした。イベント制作や現場実践で培う経験に加え、企画力、想像力を向上させるため、グループワークやPDCAサイクルを強化し、時勢、ニーズに柔軟に対応できる人材育成を目指し、次年度に向けてカリキュラムのブラッシュアップをしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科では、2年間で12回のイベント企画運営、婚礼プロデュースを通じ、業界企業と学生が直接のコンタクトを持ち協業するプログラムを作成する。プライダル業界と常に連携、アプローチ・フィードバックの双方向性を意図した、産業界ニーズやリアルジョブのダイレクトな取り込みを基本とした教育をする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科では、学科グランドデザインに基づき、企業と連携しシラバスを作成し下記の連携科目を実施している。企業講師や担当教員による実習を行い、課題ごとの中間発表や作品展を通して、企業講師の評価を受けている。実習修了時には、担当教員が企業講師の評価を踏まえ総合的に成績評価を行っている。

(3)具体的な連携の例(科目数については代表的な5科目について記載。)

科目名	科目概要	連携企業等
ディレクション	モノ・ヒト・空間・想いを演出する仕事の創り方、実践ワークから学ぶリアルジョブ授業。	ホテルニューグランド
ウェディングプランニング	イベント、婚礼制作すべての企業立案運営、企画調整を学ぶ授業。	横浜ベイホテル東急 アニヴェルセルみなとみらい横浜

THE BLESSING	業界理解を深める為、本物の現場でプロと携わり、仕事の進め方や運営力を学ぶ授業。	湯本富士屋ホテル
プライダルプロジェクト	本物の婚礼を総合プロデュースする実践を目的とする。組織立ち上げからコンセプトワーク運営システムを理解し、婚礼当日における現場での実践を行う。	ハイアットリージェンシー横浜 ホテルメルパルク横浜

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では、平成24年4月1日施行の教職員研修に関する規程に基づき、企業と連携した研修を行うことで産業動向や企業の人材ニーズを理解し、教育内容や就職支援に役立てることとする。研修は本校の人材育成計画に添って、①職業実践に資する知識・技術の習得 ②学生指導・教授法 ③学生サービス・支援等の内容で、年間で計画し、実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「東京ORWA交流会 真夏の東京で沖繩リゾートウェディングを盛り上げよう交流会」	連携企業等:	一般社団法人沖繩ウェディング協議会
期間:	令和4年7月29日(金)	対象:	鈴木寿子
内容:	市場概要、内地企業加入による取り組み事例についてセミナー、意見交流を行った。沖繩リゾートウェディングの実態について理解し、在京会員間の懇親を深め新たな企業開拓をし、産学連携、就職先へ繋げた。		
研修名:	「こどもたちは知っているSDGsの本質 目指せ「Social Bridal Company」！」	連携企業等:	公益社団法人日本プライダル文化振興協会
期間:	令和4年6月9日(木)	対象:	江波戸秀樹
内容:	SDGsやエンカルの現状や、今の子供達の理解度についての講演。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「ビジネス文書研修(入門編)」	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年2月21日(火)・令和5年3月24日	対象:	松本みづほ、鈴木寿子
内容:	ビジネス文書作成の基本を確認し、学生の文書作成指導に活かした。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「DXでアップデートするおもてなし文化」	連携企業等:	株式会社社ウエディングパーク 株式会社八芳園
期間:	令和5年6月8日(木)	対象:	江波戸秀樹、末次友香、鈴木寿子、土田真莉菜
内容:	ウエディングパークにおけるDX推進の背景、ウエディング業界のDXについて、事例をもとに紐解くDXトークセッションを3部構成で講演。プライダルコーディネーター技能検定の1級合格者への合格証書授与式も執り行われる。DXへの取り組みを学び、学科運営に活かす。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「プライダル産業フェア2023/ホテル開発&リニューアルフェア」	連携企業等:	株式会社プライダル産業新聞
期間:	令和5年5月31日(水)	対象:	末次友香
内容:	ホテル開発、新商品、DX等出展企業、セミナーへの参加。プライダル業界企業との親睦を深め、学生へのインターンシップ先の新規開拓、就職活動に繋げる。		
研修名:	「ウエディングシンポジウム2023～これからの日本のウエディング～」	連携企業等:	エリアウエディングサミット事務局 リクルートプライダル総研
期間:	令和5年9月4日(月)	対象:	末次友香、大瀬三香子、鈴木寿子、土田真莉菜
内容:	次世代の若手従事者の本音からウエディング業界についてディスカッションを行う。業界の人材不足、その背景にはあるものは何か。業界関係者が熱くディスカッションする。業界理解を深め、学生指導に活かす。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校目的を達成するための目標設定や具体的計画について、達成状況や取り組みの適切さを自己評価として行い、その結果について、本校に定める学校評議委員会が評価を行う。その目的は、学校評価の精度を上げ、客観性を高めるためのものであり、企業、地域代表、卒業生の意見を積極的に汲み取り反映させる。そのため、学校関係者評価委員会を組織し、学校の活動内容を各委員に周知するとともに、意見交換を行う機会を設ける。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像は定められているか、また学生、保護者へ周知されているか、公表されているか、等
(2) 学校運営	運営会議等が定期的に開催されているか、事業計画が定められているか、等
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか、等
(4) 学修成果	就職率の向上、退学率の低減、卒業生の活躍、等
(5) 学生支援	進路・就職に対する支援体制、学生相談の体制、経済的支援体制、等
(6) 教育環境	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか、等
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は適性に行われているか、教育成果は正確に伝えられているか、等
(8) 財務	財務基盤は安定しているか、予算・収支計画は妥当か、会計監査は適正か、等
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護の対策、等
(10) 社会貢献・地域貢献	学校施設を活用した社会貢献の実施、ボランティア活動の奨励・支援、等
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

産学連携イベント、検定取得における取り組みの全体評価に加え、委員からは、今後も独自のカリキュラム・コンテンツを貫き、良い人材を輩出していただきたい、専門学校と企業側の双方で、相違がない環境を整えていく必要があると意見をいただいた。本学科では、在学中に単位認定制のインターンシップを実施しており、現場経験を積むことで、業界理解を深め、就職活動に活かしている。今後もインターンシップやイベント制作を通じて、企業側と学生がマッチングしやすい環境を整え、将来にわたり社会に貢献できる人材育成を目指していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月31日現在

名前	所属	任期	種別
市川 雄司	株式会社TFL 代表取締役	R5.4.1～R6.3.31	企業等委員
高田 明宏	株式会社高島屋 執行役員 横浜店 店長	R5.4.1～R6.3.31	業界・地域委員
那須野 教恵	神奈川県教育委員会教育局 総務室 (前 県立高等学校 校長)	R5.4.1～R6.3.31	教育行政委員
夏目 哲宏	株式会社ブライト 代表取締役	R5.4.1～R6.3.31	企業等委員
望月 大作	株式会社ウィゴー 取締役 WEGO事業本部 本部長	R5.4.1～R6.3.31	卒業生、企業等委員
吉原 直樹	株式会社アルテ サロン ホールディングス 代表取締役会長	R5.4.1～R6.3.31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
◀ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )  
URL: <https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html>  
公表時期: 令和5年9月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動や学校情報を外部に提供することにより、専門学校の社会的な理解・評価を促進し、教育の質の確保・向上を図ることを目的とする。情報の提供にあたっては、学生や保護者、関係業界等が求める情報の内容を把握し、その求めに応じた情報を適切に提供することを基本とし、また、その方法にあたっては、学校案内書などのパンフレット、各種説明会における説明、広報物、学校ホームページなど提供すべき情報の性質にあわせた適切な手段で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校教育・人材養成の目標及び教育指導計画、特色、学校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、等
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学定員、カリキュラム、時間割、学習の成果として取得を目指す資格
(3)教職員	教員の紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動(ファッションショー、イベント活動)
(6)学生の生活支援	学生支援の組織(クラス担任制)
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(金額、納期時期等)、活用できる教材的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免制度等の案)
(8)学校の財務	事業報告書、等
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	学則、厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

◀ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )  
URL: <https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html>  
公表時期: 令和5年9月

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ブライダル科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ドレスメイキングⅠ	服飾知識・洋裁基礎技術の習得。	1・通	90				○	○		○		
2	○			デザインテクニックⅠ	ブライダルデザインアイテムのデザイン制作。丁寧で美しいモノ創りと空間造形。	1・通	60				○	○			○	
3	○			ライフデザインⅠ	就職から恋愛・結婚・育児・家庭・再就職・老後まで現状に即した自分の人生デザイン。	1・通	15		○			○			○	
4	○			フラワーアレンジメントⅠ	トータルフラワーアレンジメント、装飾花、ブーケデザイン、シーズンアレンジメント。	1・通	60				○	○			○	
5	○			トータルブライダルコーディネーター	フォーマル知識、トータルビューティースタyling。	1・通	120		△		○	○		○	○	
6	○			カリグラフィーⅠ	ヨーロッパの手書き英文字のデザイン展開とオリジナルデザインの創作、作品化。	1・通	60				○	○			○	
7	○			ウェディングプランニング	イベント、婚礼制作すべての企画立案と運営、企画調整、プレゼンテーション、オペレーション。	1・通	90		△	○		○			○	○
8	○			コミュニケーショントレーニング	接客コミュニケーション能力開発とサービストレーニング。	1・通	60		△	○		○			○	
9	○			ITリテラシー講座	ビジネスで活用できる文書作成、表作成、プレゼンツールを理解し、ビジネス文書や企画書の作成、プレゼンテーション用ツールの作成技術を身につける。	1・通	30			○		○		○	○	
10	○			サービストレーニング	マナー、サービス、ホスピタリティ、おもてなしを理解し、どうしたら喜んでいただけるか、満足感を感じていただけるかを常に考え行うことが出来るようになる。	1・通	30		○			○			○	
11	○			ビジュアルクリエーションⅠ	映像・写真・音声のデジタル構成と編集。	1・前	15			○		○		○		
12	○			ブライダルサウンド	音楽効果、選曲・編集などのサウンドとライティングの総合空間コーディネート。	1・後	15			○		○		○		
13	○			ブライダルジュエリー	ビーズをメインにしたブライダルジュエリーデザインの商品製作と販売。	1・通	90				○	○			○	
14	○			THE BLESSING	毎週さまざまなテーマで展開される自己啓発授業。自分発見・自己創造・磨き上げ。	1・前	45		△	○		○		○	○	
15	○			ディレクション	ヒト・モノ・空間・想いを演出する仕事の創り方、実践ワークから学ぶリアルジョブ授業。	1・後	45		△		○	○		○	○	
16	○			クラスアクティビティ	すららネットや学内活動などの各種活動で運用。	1・通	45			○		○			○	
17	○			サービス接客検定2級対策講座	社会人・組織の一員として求められる接客・接客スキルを身につけるために、必要となる知識や技能を学ぶ。	1・後	15		○			○			○	
18	○			クラスアクティビティ	就職活動や学内活動などの各種活動で運用。	2・通	45			○		○			○	
19	○			ドレスメイキングⅡ	オリジナルウェディングドレスのデザイン制作。	2・通	90				○	○		○		
20	○			デザインテクニックⅡ	ブライダルデザインアイテムのデザイン制作。丁寧で美しいモノ創りと空間造形。	2・通	60				○	○			○	
21	○			ブライダルプロジェクト	本物の婚礼を請け負う総合婚礼プロデュース。コンセプトワーク、打ち合わせ技術、プロデュースノウハウなどのクリエイティブ授業。	2・通	330		△		○	○		○	○	
22	○			ブライダルビューティー	トータルブライダルビューティー、総合的な美を、栄養・スキンケア・ヘアメイクからマインドケアまで学習。	2・通	60		○	△	○				○	

23	○		フラワーアレンジメントⅡ	高度な押し花デザイン、アーティスティックフラワーデザインの展開と創作。	2・通	60				○	○			○
24	○		カリグラフィーⅡ	カリグラフィーの高度なデザイン展開、オリジナルデザインの創作、作品化。	2・通	90				○	○			○
25	○		ホスピタリティ&マナー	サービスパフォーマンス、ユニバーサルサービストレーニング。	2・通	60		△	○		○			○
26	○		ビジュアルクリエーションⅡ	映像・写真・音声のデジタル構成と編集。	2・通	30			○		○			○
27	○		ライフデザインⅡ	就職から恋愛・結婚・育児・家庭・再就職をウエディングプランナーのワークライフバランスと共に考察。	2・通	15			○		○			○
合計						27科目	1725単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各年次における必修科目を履修し、所定の単位をすべて取得した者に対して卒業を認定する。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。